



学校だより

学校教育目標

郷土を誇りに思い、未来社会を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第1号

令和3年4月6日発行

文責 校長 宮地 浩幸

令和3年度人事異動

令和3年3月末をもって5名の職員が本校を去りました。大変お世話になりました。そして新たに5名の職員が転入しました。まだ慣れない生活に戸惑いもあるようですが、どうぞ宜しくお願い致します。

転出者					転入者			
校種	職名	氏名	転出先等	期間	校種	職名	氏名	前任校等
小学校	教頭	山本英俊	名護屋小	2年	小学校	教頭	中島賢治	有田中部小
小学校	講師	田中寿男	玄海みらい	5年	小学校	教諭	上田亜由美	加唐中
中学校	講師	井手瑞樹	日本人学校	1年	中学校	教諭	岡 大介	田代中
中学校	講師	井手久美子	退職	1年	中学校	養護教諭	森 亜莉紗	山代西小
中学校	養護助教諭	金子真夕	退職	2年	中学校	講師	富川貴弘	新任

※非常勤講師は除く

校長挨拶

昨年度に引続き、今年度も学校を預かることになりました。昨年度はコロナ禍において、例年通りのようにはいきませんでした。何とか無事に1年を終えることができ安堵したところです。今年度は、職員も若い人たちが増えて、子ども達との年齢もかなり近づきました。小学生が5名（新入生は2名）、中学生が1名で本年度をスタートします。半分以上が小学3年生以下になりますので、小学校低学年を中心に学校は動き出します。それでも全体の数は昨年と一緒ですので、子どもファーストで、一人ひとりのニーズを見極めて細かい指導を心掛けていきます。子ども達みんなが加唐小中学校で学んでよかったですと思えるよう頑張っていきますので、保護者や地域の皆様の温かいご支援、ご理解のほどを宜しくお願いします。

令和3年度の学校教育目標

郷土を誇りに思い、未来社会を生き抜く児童生徒の育成
- 知、徳、体のバランスの取れた児童生徒の育成を通して -

本年度の学校教育目標を上記のように設定しました。昨年度まで行ってきた教育活動と大きく変わるわけではないのですが、国際化、情報化、少子高齢化といわれる予測不可能な未来社会に対して、本質的な「生きる力」を子ども達に培ってもらうため、もう一度教育の基本に立ち返り、子どもたちの心身共に健全な成長を図りたいと思います。勉強もスポーツも何でも一生懸命に頑張ることができる子ども達そ

してその成果を十分発揮できるよう学校は子どもたち一人ひとりのニーズに合わせて支援していきます。子どもの数が少ないということを最大の強みとして成果を出すことができるよう努力します。もちろん、自然豊かな環境や歴史的な価値を持つ加唐島、松島の特性を生かした体験活動、ICT 利活用教育は継続していきます。子ども達が加唐小中学校の生徒としての自覚と誇りをもって行動できるようになること、それが、学校、保護者、地域（郷土）への感謝を内側から生み出す原動力と考えます。

学校教育目標は HP にも掲載しています。詳しくは次をご参照ください。

<https://www.education.saga.jp/hp/kakara-j/?content=%e6%95%99%e8%82%b2%e7%9b%ae%e6%a8%99>

北方領土に関するスピーチコンテスト全国 2 位（河野大臣と交流）

学校だより（令和 2 年度第 22 号）で本校中学 1 年生が北方領土に関するスピーチコンテストで全国トップ 10 に入ったことのお知らせしましたが、最終審査で全国第 2 位（内閣府北方対策本部審議官賞）を受賞しました。佐賀県からこれまで全国審査を経て第 2 位になったのは、これが初めてだそうです。改めて本校の生徒の実力の高さに驚き、感心するばかりです。

また、このことに伴って、オンラインで河野大臣と交流の場が設けられました。どんどん今回の受賞の意味の大きさが膨らんでいきます。加唐島から情報は世界の方へ向かっていきます。校長が卒業式の式辞で「国際色豊かな場所に立地する本校は、何らかの使命を帯びているのを感じます。今後、情報機器の更なる発達により、国際化の波はますます拍車をかけることになるでしょう。現場に行かなくとも、ICT の利用により、誰でも世界中とつながることができるようになってきました。本当に価値があるものは、すぐに世界中から称賛される時代になってきました。だから、今の小中学生には本物になって、未来社会を切り開くための本当の『生きる力』が必要です。自然豊かで、歴史的価値を持つこの地で皆さんはきちんと学んできました。培った力は本物です。この力を精一杯発揮してください。期待しています。」と言いましたが、在校生がこれを具現化するような状況になったことに教育のすばらしさを実感できます。

4 月 2 日 13:05 に大臣室と本校ツバキルームがオンラインでつながりました。今回、上位入賞者 3 名と河野大臣で北方領土についての意見交換会が行われたのですが、まず初めに河野大臣より、受賞のお祝いと謝辞が述べられました。「実際にロシア大統領と交渉を経験した上で、中学生たちのスピーチの力強さが身に染みた。皆さんと同じ年代の人たちにもっと知ってもらい、考えてもらい、行動してもらい、行動していただくことが大切だ。」と話され、意見交換が始まりました。短い時間の交流会でしたが、領土問題は国民みんなが自分ごととして同じ思いを持って頑張っていくことが大切であることを確認できました。今回の交流会を傍で見ていた中で、国家の大臣と直接話をできたという経験は、周りで見ているよりも生徒にとっては私たちが想像もできないくらいの感動があったと思います。もちろん始まる前の緊張感もそうだったと思いますが、それ以上にこれから未来社会を生きていくうえで、貴重なものを得られたはずで、これからの活躍が楽しみです。

